

# ひびき

教育目標：「なかよく かしこく たくましく」

～ 夢と自信と思いやり ～

多治見市立共栄小学校 R3.2.26

## 【卒業式で、成長した姿を〇〇〇に見せよう】

校長 宮地敏彦

昨年に続き、今年もコロナ感染防止対策として卒業式を従来とは異なる形で行うことになりました。昨年度は、縮小・制限のため従来の形式を見直し、どうしても必要なこと、割愛しても影響が少ないことを選別して挙行了しました。今年の卒業式もまた、そのような配慮をしていかななくてはなりません。感染対策のために参加者も制限するわけですが、なぜ従来の卒業式では下級生を参加させるのか、なぜ多くの来賓の方をお招きするのか、その本来の意味は忘れてはいけないと思います。

その参考になる、ある月刊誌に掲載されていた文章を紹介します。上のようなタイトルがありました。「〇〇〇」には漢字3文字が入るのですが、皆さんは何だと思われますか？私は「保護者」という言葉がすぐに浮かびましたが、答えは…？と思い興味を引かれて読んでみました。自分の知らない「卒業式の内容や意味」が書いてあり、「なるほど…」と思いました。以下の記事です。

### 「卒業式は最大の行事」

卒業式は、儀式的行事である。厳粛で適度の緊張感が要求される。卒業式で最も重要なのは教育委員会告示である。教育委員会代表者が「6年生の皆さんが小学校の教育課程を修了したことを認めます」と宣言する。なぜこれが大切か？

卒業式は、長年にわたって納税をしてくれた地域住民、保護者に、6カ年の教育活動の修了を報告し、成長した姿を披露する場である。納税者は次代を担う子どもたちのために、多額の税金を納めてくれた。それで、教師を雇用し、校舎を維持管理し、必要な経費を負担してくれた。学校給食も、必要経費の三分の一以下の費用負担で運営できた。これらの投資の額は相当なものになる。

これらの投資の成果を見てもうらうために、来賓として学校の設置者及び設置者の教育委員会の臨席を依頼する。また、地元の区長や関係機関の代表者もお招きする。

卒業式の告示とはそういう意味であることを、教職員がよく理解し、子どもたちに指導しなければならない。告示は単なるセレモニーではないのである。 …………… 『教育トークライン NO.445』

…ということで、「〇〇〇」には「納税者」と書かれてありました。「…子どもたちの成長した姿を納税者に見せよう」とは、自分にとってはなかなかインパクトがありました。これまで中3の「卒業生」を担当した時は、確かに「成長の証として姿で示す」ということは指導しました。しかしそれは「先生や親に感謝をこめて」という意味合いからです。「納税者に向けて示す」という考え方はしたことがありませんでした。しかし、このことは「なるほど」と思えます。「地域の学校」「地域に支えられている学校」ということを、校長をしていると強く感じるからです。従来お招きしていた多くの来賓の方々には、地域住民を代表される方として、それまでの指導の成果としての「児童の姿」をしっかりと示す目的があったであろうと推察します。

小学校の卒業式は、6年生一人一人にとっては小学校教育を締めくくる大切な儀式です。また、学校にとっても一年間の教育活動の成果が問われる行事でもあります。出席される全ての方が、「夢と自信と思いやりのある児童の姿に感動した」と感じていただければ、6年生児童にとっても最高の喜びとなります。では、感動的な卒業式をつくり上げるにはどうするのか！？

式と名の付くものは厳粛に行われることが大切であり、厳かに進行していくのが大前提です。“無音の静寂”と“美しい姿勢と立ち居振るまい”が式に緊張感を与え、真剣な雰囲気醸し出します。

そして、座礼・立礼、返事、歌声、拍手をそろえることがさらに「静中の動」というべき品格を生み出します。つまり、「厳粛な静」と「静中の動」、この二つが感動を生み出す大きな要素だと言えます。「心を込める」ということは、具体的な姿にこだわるということだと思えます。『気持ちよく卒業したい！』という6年生の願い、『安心して卒業してほしい。』という在校生の思い…、この、先輩・後輩の心が一つになってこそ、卒業式は思い出に残る儀式となります。

共栄小学校はこれから児童・教職員が一丸となって一年間の締めくくりに取り組んでいきます。



<3月25日卒業証書授与式>